

Ⅲ

計画の推進に向けて



(1)次世代育成支援のための市民参画の促進と企業との連携

子育て支援やこどもの健全育成は、行政のみならず、社会全体で取り組むことが重要です。

そのため、市政だよりやホームページなどにより、本計画の周知・啓発に努め、中高生や高齢者を含む市民、ボランティア、NPO法人、子育て家庭のグループ、地域団体などの積極的な参画を促すとともに、行政との連携を深めつつ、施策を推進します。

また、市民や地域団体、企業などが連携し、次世代育成支援対策を総合的・効果的に推進するための体制を整備し、地域全体での取り組みを推進します。

(2)関連機関等との連携

本計画では、児童保健福祉部門、教育関連部門、文化・スポーツ関連部門、都市整備部門など、複数の組織の施策を対象としています。そのため、これらの施策が相互に関係しあい、市民により良いサービスを提供できるよう、「千葉市子どもプラン推進委員会」を中心に、庁内関係各課の情報共有、調整、連携を密にし、本計画の着実な推進を図ります。

また、国、県などの関係機関との情報交換、連携を強化しつつ、施策の効果的な推進を図っていきます。

(3)計画のフォローアップと弾力的な運用

本計画の実施状況は、広く市民、関係団体、施設関係者等の意見を聴いて、基本目標や基本施策など様々なレベルで、数値目標などを踏まえて、点検・評価を行い、施策や事業の改善につなげていきます。また、毎年度、その進捗状況をホームページなどで公表するとともに、千葉市社会福祉審議会児童福祉専門分科会に報告するものとします。

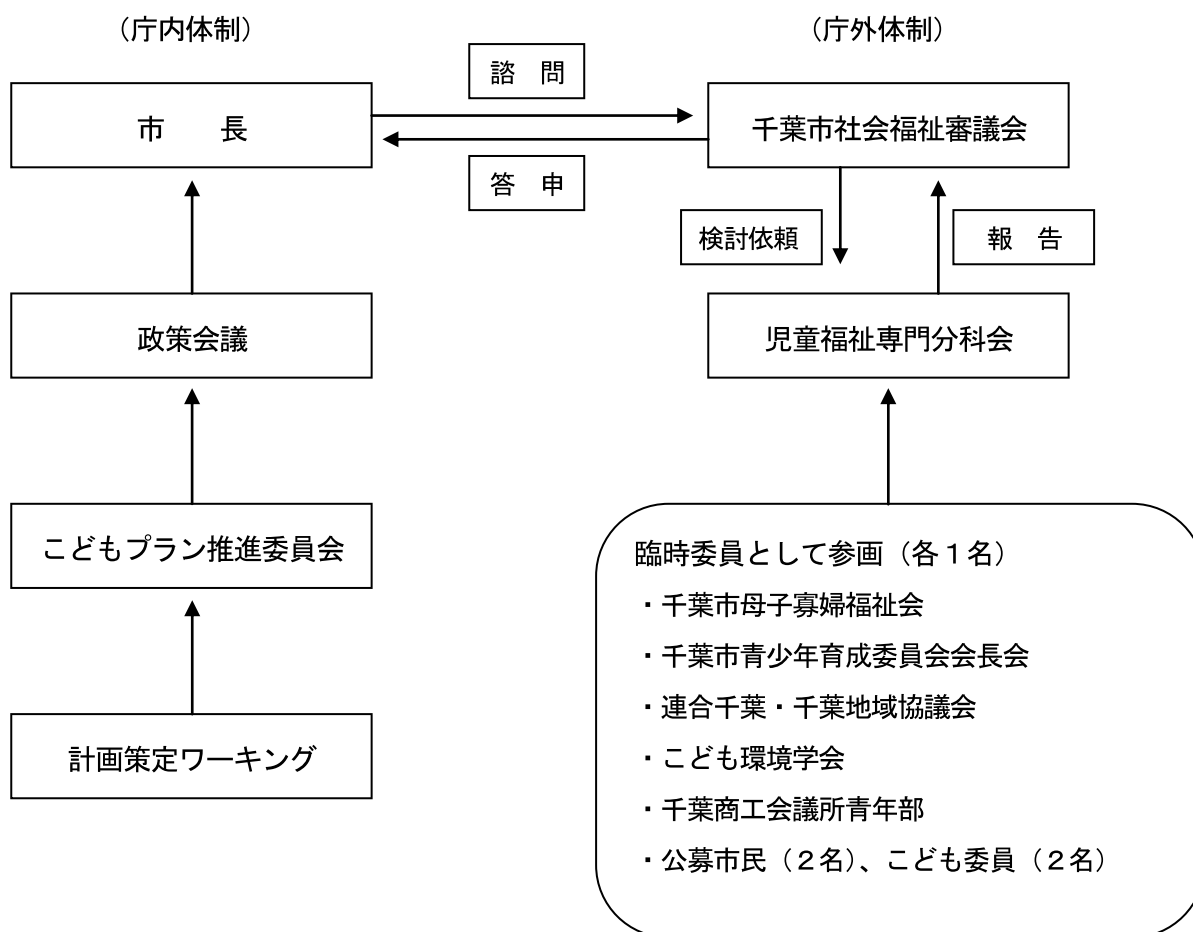
なお、社会経済情勢の変化や補助金などの制度改正、市民ニーズの変化等に柔軟に対応するため、必要に応じて計画の見直しを図ります。

＜図表目次＞

番 号	名 称	ページ
図 1	自然・社会増減の推移（千葉市）	6
図 2	行政区別の年少人口比率および高齢化率（千葉市）	6
図 3	千葉市の総人口の見通し（中位推計）	7
図 4	千葉市の人口推計（年齢3区分人口比率）	7
図 5	人口と出生数の推移（千葉市）	8
図 6	出生率と合計特殊出生率の推移（千葉市）	8
図 7	一般世帯数と世帯人員（千葉市）	9
図 8	行政区別の世帯数および一世帯当たり人員（千葉市）	9
図 9	行政区別の子どもがいる世帯の状況（千葉市）	10
図 10	行政区別の高齢者のいる世帯の状況（千葉市）	10
図 11	未婚率の推移（千葉市）	11
図 12	行政区別の20-39歳未婚率（千葉市）	11
図 13	男女別就業率の推移（千葉市）	12
図 14	女性の年齢階層別労働力率の推移（千葉市）	12
図 15	過去9年間の相談受理と虐待相談受付件数の推移（千葉市）	13
図 16	児童福祉施設等の入所状況の推移（千葉市）	14
図 17	就学前人口、保育所（園）及び幼稚園の児童数の推移（千葉市）	15
図 18	保育所待機児童数の推移（千葉市）	15
図 19	就学前人口と保育比率の推移（千葉市）	15
図 20	大人と子どもが学校などで一緒に話し合う場への参加意向（中学生・高校生調査）	18
図 21	地域の環境や活動等についての発言意向（中学生・高校生調査）	18
図 22	少子化を抑えるために必要な対応（20代・30代調査）	19
図 23	千葉市・政令市・全国の人口ピラミッド	20
図 24	自分の知識・経験等を地域活動において生かす意向の有無（60代調査）	20
図 25	市が行っている子育て支援策「利用意向」（小学校児童家庭調査）	21
図 26	地域活動への参加状況（中学生・高校生調査）	37
図 27	今後の地域活動への参加意向（中学生・高校生調査）	37
図 28	子どもを持つことについての不安・負担（20代・30代調査）	41
図 29	平日の子どもの過ごし方の希望（小学校児童家庭調査）	46
図 30	フルタイムで働いている夫の週平均残業時間（20代・30代調査）	52
図 31	悩みや関心の内容（中学生・高校生調査）	66
図 32	必要と思われる少子化対策（20代・30代調査）	80
図 33	子どもを取り巻く都市環境や社会環境についての考え（小学校児童家庭調査）	98

付属資料

次世代育成支援行動計画の策定体制



児童福祉専門分科会における検討状況

開催日	会議名	会議内容
平成 21 年 8 月 12 日	第 1 回児童福祉専門分科会会議	後期計画について アンケート調査について
平成 21 年 11 月 4 日	第 2 回児童福祉専門分科会会議	骨子案について審議
平成 21 年 12 月 21 日	第 3 回児童福祉専門分科会会議	計画素案について審議
平成 22 年 3 月 23 日	第 4 回児童福祉専門分科会会議	計画案について審議

千葉県社会福祉審議会児童福祉専門分科会委員名簿（五十音順・敬称略）

氏名	職名等	備考
飯田 禮子	千葉市民生委員児童委員協議会副会長	
泉 豊彦	千葉労働局総務部企画室長	
伊藤 ルミ	千葉市医師会（小児科）	
井上 俊宏	千葉市高齢障害部こころの健康センター所長	
今井 英彌	千葉市ひまわり会（里親会）会長	
鵜澤 久朗	千葉市小中学校長学校運営協議会	
太田 俊己	植草学園大学発達教育学部教授	分科会長
上関 知子	千葉市PTA連絡協議会副会長	
黒岩 絹子	千葉市小中学校長学校運営協議会	
錦 織 明	弁護士	
西巻 義通	千葉市議会議員（保健下水委員会委員長）	分科会長職務代行
村松 重彦	千葉市幼稚園協会会長	
山崎 淳一	千葉市民間保育園協議会会長	
山崎 弘道	千葉家庭裁判所次席家庭裁判所調査官	

臨時委員

【特別の事項（次世代育成支援行動計画に係る事項）について調査審議する場合、議事に参加する。】

氏名	職名等	備考
浅羽 梅子	千葉市母子寡婦福祉会会長	
石塚 浩子	千葉市青少年育成委員会会長会 （磯辺第一中学校区育成委員会会長）	第2回目から参加
内海 菜々花	高校生	第1回、第4回参加
大北 祐士	連合千葉・千葉地域協議会副議長	
木下 勇	こども環境学会理事	
菅嶋 友里	高校生	第1回、第4回参加
辻 隆徳	千葉商工会議所青年部会長	
徳田 もも葉	公募市民	
早坂 麻子	公募市民	

千葉市子育て環境に関するアンケート調査結果（概要）

1 調査実施の概要

（1）調査の目的

次世代育成支援対策推進法に基づき、平成22年度から26年度までを計画期間とする「千葉市次世代育成支援行動計画（後期計画）」を策定するにあたり、保育等のニーズや地域の子育て家庭の生活実態、子育てや子育て環境に対する意識、さらに、20代・30代の市民の方や高齢者の方の子育てに関する意識などを把握し、「千葉市次世代育成支援行動計画（後期計画）」の基礎資料とするため、アンケート調査を実施したものです。

（2）調査概要

A 保育等のニーズに関するアンケート調査

- ① 調査地域：千葉市全域
- ② 調査対象者および抽出方法

調査名称	調査対象者	抽出方法
就学前児童調査	就学前児童（0～5歳）のいる家庭	住民基本台帳より、就学前児童（0～5歳）4,200人を無作為抽出
就学児童調査	就学児童（6～9歳）のいる家庭	住民基本台帳より、小学生（6～9歳）2,800人を無作為抽出

- ③ 調査方法：郵送配布・郵送回収

B 千葉市子育て環境に関するアンケート調査

- ① 調査地域：千葉市全域
- ② 調査対象者および抽出方法

調査名称	調査対象者	抽出方法
小学校児童家庭調査	小学生のいる家庭	各区小学校2校（各学年1クラス）2,319人
中学生・高校生調査	市内の学校に通学する中学生及び高校生	各区中学校2校（2年生1クラス）479人、市立高校2校（2年生全クラス）644人
20代・30代調査	20～39歳の市民	住民基本台帳より（20～39歳）480人を無作為抽出
60代調査	60代市民	住民基本台帳より（60～65歳）360人を無作為抽出
子育て関係施設従事者・子育て支援者等調査	保健師・保育士・幼稚園教諭・主任児童委員	市内の施設に従事する職員及び子育て支援関係者

- ③ 調査方法：「20代・30代調査」「60代調査」は、配布・郵送回収。
「小学校児童家庭調査」「中学生・高校生調査」「子育て関係施設従事者・子育て支援者等調査」は、学校・施設を通じて配布・回収。

(3) 調査の構成

A 保育等のニーズに関するアンケート調査

調査名称	調査項目
就学前児童調査	(1) 基本属性について (2) 親の就労状況について (3) 保育サービスの利用について (4) 育児休業制度の利用について (5) 病児・病後児保育について (6) 一時預かりについて (7) 小学校入学以降の放課後の過ごし方について (8) ベビーシッターの利用について (9) ファミリーサポートセンターの利用について
就学児童調査	(1) 基本属性について (2) 親の就労状況について (3) 放課後児童クラブの利用について (4) 病児・病後児の対応について (5) 一時預かりについて (6) ベビーシッターの利用について (7) ファミリーサポートセンターの利用について

B 千葉市子育て環境に関するアンケート調査

調査名称	調査項目
小学校児童家庭調査	(1) 基本属性について (2) 親の就労状況について (3) 子どもルームの利用状況（現状）について (4) 子どもルームの利用希望について (5) 子どもの一時預かりについて (6) 子どもとの関わりについて (7) 子どものまわりの生活環境について (8) 子育て支援サービスの認知度・利用意向について (9) 子どもの食生活について (10) 出産・育児に対する意識について
中学生・高校生調査	(1) 基本属性について (2) 生活について (3) 少子化について (4) 仕事、結婚、育児について (5) 学校生活、家庭生活、友達との関係について (6) 生活環境について (7) 食生活について (8) 子どもの社会参加について (9) その他
20代・30代調査	(1) 基本属性について (2) 既婚者の仕事、結婚に関する意識について (3) 未婚者の仕事、結婚、育児に関する意識について (4) 結婚観、大人に関する意識について (5) 出産・育児に対する意識について (6) 子育て支援に対する実態や意識について (7) 少子化の要因について (8) 地域活動について (9) 生活環境について

60代調査	(1) 基本属性について (2) 地域での活動について (3) 少子化の要因について (4) 子育て支援について
子育て関係施設従事者・ 子育て支援者等調査	(1) 基本属性について (2) 出産・育児に対する意識について (3) 少子化の要因と対策について (4) 子育て支援サービスに対する意識について (5) 保育士、幼稚園教諭に対することについて

(4) 調査の実施状況

A 保育等のニーズに関するアンケート調査

調査名称	実施時期	配付数	回収数	有効回収数	有効回収率
就学前児童調査	H20.9月	4,200	2,043	2,043	48.6%
就学児童調査	H20.9月	2,800	1,239	1,239	44.3%
合計(A)	—	7,000	3,282	3,282	46.9%

B 千葉市子育て環境に関するアンケート調査

調査名称	実施時期	配付数	回収数	有効回収数	有効回収率
小学校児童家庭調査	H21.6月	2,319	1,875	1,875	80.9%
中学生・高校生調査	H21.6月	1,123	1,004	990	88.2%
20代・30代調査	H21.7月	480	132	132	27.5%
60代調査	H21.7月	360	163	161	44.7%
子育て関係施設従事者・ 子育て支援者等調査	H21.4月	637	520	516	81.0%
合計(B)	—	4,919	3,694	3,674	74.7%

全調査の合計

調査名称	実施時期	配付数	回収数	有効回収数	有効回収率
合計(A+B)	—	11,919	6,976	6,956	58.4%

2 調査結果の概要

A 保育等のニーズに関するアンケート調査結果

(1) 就学前児童調査

□仕事と子育てが両立できる就労や子育て支援の環境整備が望まれる

現在働いていない母親の就労希望として、9割弱（88.6%）が今後の就労を希望しています。また、就労希望がありながら現在働いていない理由は、「働きながら子育てできる適当な仕事がない」（39.0%）と「保育サービスがあれば就労したい」（16.9%）を合わせると半数以上になります。

出産前後の離職状況では、4割弱（38.6%）の母親が離職しており、そのうち約半数が仕事と家庭の両立を支援する保育サービスや環境が整っていたら就労していたと回答しています。

このため、子どもを産んだ後も就労を希望する母親のニーズに応えられるよう、仕事と子育てが両立できる就労や子育て支援の環境整備が重要です。

□保育と教育のサービス利用が多い

現在、保育サービスを利用しているのは約半数（48.8%）で、利用しているサービスは「認可保育所」（47.2%）と「幼稚園」（43.1%）が多くなっています。保育サービスを利用している理由としては、「現在就労している」が過半数（55.0%）を占め、次いで「子どもの教育のため」が3割台半ば（36.6%）となっており、保育と教育のためのサービス利用が多くなっています。

□多様な保育サービスが求められている

今後の保育サービスの利用意向としては、「認可保育所」（34.4%）、「病児・病後児保育」（29.3%）、「幼稚園の預かり保育」（24.2%）、「一時預かり」（22.8%）など、保護者の多様なニーズに応えられるよう保育サービスを充実していくことが求められます。

□病児・病後児の預かり施設の充実が望まれる

この1年間に病気等で保育サービスを受けられなかった子どもは4割弱（37.3%）で、その際の対処方法として、「母親が休んだ」場合が6割強（62.7%）となっています。

また、父親や母親が休んだり、（同居者を含む）親族・知人に預けた方で、できれば施設等に預けたいと思った保護者は6割強で、病児・病後児の預かり施設の充実が望まれます。

(2) 就学児童調査

□就労を希望する母親への就労支援が望まれる

現在働いていない母親の就労希望として、8割強（83.2%）が今後の就労を希望しています。また、就労希望がありながら、現在働いていない理由は、「働きながら子育てできる適当な仕事がない」が4割強（43.4%）となっており、就労を希望する母親が就労できるよう対策を講じることが求められます。

□働く保護者の子どもの預け先として放課後児童クラブのニーズがある

放課後児童クラブの利用状況は2割弱（18.6%）ですが、そのうち7割（69.3%）が週5日以上利用しています。また、現在は利用していないが今後利用したいという希望が2割台半ば（25.2%）で、その理由は「そのうち就労したい」（41.5%）、「現在就労している」（27.7%）が多くなっています。

共働き世帯の増加とともに、子どもの預け先として放課後児童クラブのニーズがあります。

□病児・病後児の世話は、母親と就労していない保護者が対応するケースが多い

この1年間に学校を休まなければならなかった子どもが過半数（54.8%）にのぼり、その際の対処方法として、「母親が休んだ」場合が4割強（43.0%）、「就労していない保護者がみた」（41.2%）となっています。

B 千葉市子育て環境に関するアンケート調査結果

（1）小学校児童家庭調査結果

□保護者の就労状況等を踏まえた子どもルーム等の対応が重要

子どもルームの利用状況は、平日が2割強（21.9%）、土曜日が1割未満（6.2%）ですが、今後の利用希望は平日が4割（39.9%）、土曜日が1割台半ば（15.6%）で、平日の利用希望の割合が高くなっています。また、『放課後子ども教室』は、3割台半ば（35.1%）の利用意向があり、週に「1日」（40.3%）か「2日」（28.4%）の利用希望が多くなっています。

このため、今後の子どもの保護者の就労状況等を踏まえながら、子どもルーム等の対応を検討することが重要です。

□いつでも子どもが遊んだり、体を動かしたりできる場が求められている

子どもの過ごし方として、「雨の日でも体を動かして遊んだり、運動する」（平日：28.7%、土日：23.0%）や「その場に行くとなんと誰かと遊べる場所へ行く」（平日：27.9%、土日：18.7%）、「自然があり、ほっとできる場へ行く」（平日：19.7%、土日：26.7%）など、平日、土日を問わず、自宅から出て、体を動かすような過ごし方を希望する保護者が多くいます。また、学校施設を子どもの居場所として無料開放した場合の利用希望も高くなっています（平日：70.3%、土日：59.0%）。さらに、公営住宅整備の際の施設要望として、「近隣に住む子どもも遊べる居場所」（57.1%）を望む声が多くあります。

このようにいつでも子どもが誰かと遊んだり、体を動かしたりできる場が求められています。

□子どもが育つ上で安全・安心な地域環境の整備が求められる

子どもを取り巻く都市環境や社会環境については、「暗い通りや見通しのきかないところが多く、犯罪にあわないか心配」（51.0%）、「歩道や信号がない通りが多く事故にあわないか心配」（40.3%）といった割合が多くなっています。

このため、子どもが地域で安全に安心して過ごせるよう環境の整備が求められます。

(2) 中学生・高校生調査結果

□晩婚・非婚への問題意識をもつ中・高校生が増え、その対策が課題となっている

少子化が進行する理由として、「子育てにお金がかかる」(46.9%)に次いで、「結婚年齢の上昇」(38.5%)が挙げられています。一方で、将来の結婚は多くの中・高校生が望んでおり(68.1%)、晩婚・非婚が増えていることについては、「個人の人生観や価値観によるものなのでかまわない」と考える割合が多いものの、5年前の調査と比べると大きく減少し(H16:68.1%→H21:42.3%)、逆に「何らかの対策をするべきだと思う」(H16:10.4%→H21:22.0%)が倍増しています。

結婚に対する問題意識をもつ中・高校生が増えており、晩婚・非婚化傾向への有効な対策が課題となっています。

□子育ては母親が中心となりつつも、夫婦で協力した子育てが望まれる

中・高校生の過半数(52.2%)が何らかの育児体験があり、同じく過半数(55.7%)が育児体験をしたいという希望があります。また、育児と仕事をもつことについては、子育て期間中は母親は仕事をやめるのがよいという志向をもった中・高校生が多いが、理想の子育て環境については、「夫婦協力して子育てをしたい」(60.8%)という意識をもっています。

仕事は夫、育児は母親が中心となりつつも、夫婦が協力して子育てすることを望んでいます。

□次代を担う中・高校生の地域への関わり、活動への参画が望まれる

現在、地域の行事やボランティア活動など「特に何も行っていない」中・高校生が過半数(55.2%)、今後「特に何も行いたくない」も4割弱(38.9%)います。

また、「大人と子どもと一緒に話し合う場が学校などにあれば参加したいか」や「地域の環境や活動について、自分の意見を言える機会があっても発言してみたいか」について、思わないという中・高校生がどちらも6割強います。そのうち地域の環境や活動等について発言したいと思わない理由としては、「めんどくさい」(40.5%)、「いいたいことがない」(34.5%)、「意見を言っても地域は変わりそうもない」(33.2%)という割合が多くなっています。

地域とのつながりの希薄化が指摘されるなか、中・高校生の日常的な地域の人々と関わりや、次代を担う世代が自ら積極的に地域の活動へ参加・参画することが望まれます。

(3) 20代・30代調査結果

□結婚願望のある未婚者への支援が求められる

未婚者の大半(75.0%)は結婚願望を持っています。こうした未婚者の理想的な結婚のきっかけをたずねると、「趣味を通じて結婚したい」(28.8%)とする割合が高いが、既婚者に結婚したきっかけをたずねると「友人の紹介・合コン」(32.1%)が多くを占めており、理想と現実との違いが見られます。

また、既婚者が結婚したきっかけでは、5年前と比べ、職場結婚が半減(H16:50.0%→H21:24.4%)している反面、「友人の紹介・合コン」がほぼ倍増(H16:18.6%→H21:32.1%)しており、若者が結婚するきっかけづくりとなるような支援事業も望まれます。

□結婚や子どもをもつ意識の変化が少子化を促進している可能性がある

未婚者の割合の増加（H16：34.4%→H21：39.4%）や、平均初婚年齢^{※1}が上昇（夫：H16：30.3歳→H19：30.8歳、妻：H16：28.4歳→H19：28.7歳）しているなか、半数以上の人が晩婚・非婚に対して「個人の人生観や価値観によるものなので、構わない」（55.3%）という肯定的な受けとめ方をしています。

また、子どもをもつことについては、「自分が成長する」（68.9%）という点で意義を感じている人が多く、「家の存続のため」（9.8%）、「老後の面倒を見てもらう」（7.6%）といった従来型の意識は低く、子どもをもつことの必然性が低下しています。

こうした結婚や子どもをもつことに対する意識の変化が、晩婚や非婚化、子どもの減少の要因となっていると考えられます。

※1 <資料>千葉県保健統計書

□子育てにおける経済的な負担等の軽減が求められる

子どもをもつことへの不安・負担として、多くの人が「子どもにかかる金銭的な負担が大きい」（66.7%）と感じています。また、少子化を抑えるためには、「子育て負担軽減のための税制や社会保障制度のあり方の検討」（45.5%）や「教育費・住居費の軽減」（44.7%）、「出産や保育に関する経済的支援の充実」（28.8%）などの対応が求められています。

子どもを産み、育てていく上で費用等の経済的支援の充実が望まれています。

（4）60代調査結果

□60代の知識や経験を地域に生かす仕組みづくりが求められる

60代の生きがいとしては、「体力の増進や健康の保持に努めること」（48.4%）、「趣味を持つこと」（44.7%）、「家族関係の充実」（39.8%）を挙げる人が多いです。

地域での活動については、現状も今後の意向も「趣味のサークル活動」（現在：27.3%、今後：45.3%）が最も多くなっています。また、5年前と比べ、今後の意向で、「子どもに関係する活動」（H16：8.4%→H21：21.7%）の増加が顕著です。そして、地域において自分の知識や経験等を生かしたいという人が7割弱（67.7%）います。

このため、60代の知識や経験を地域のなかで生かせる子育て支援の仕組みづくりが求められます。

□低年齢の子どもと60代との交流機会が求められる

交流したい子どもについては、就学前児童（39.1%）から小学校低学年（47.8%）までの低年齢層を望む割合が多くあります。また、望んでいる子どもとの交流は、「地域における子どもとの交流イベント開催の手伝い」（38.5%）を希望する割合が多くあります。

このため、低年齢の子どもと60代とが地域で交流できる機会つくっていくことが求められます。

(5) 子育て関係施設従事者・子育て支援者等調査結果

□子どもの社会性や協調性の低下への対応が求められる

子どもを取り巻く社会環境については、治安の問題（47.7%）に加えて、「子どもと近隣の人との関わりが少なくなった」（60.1%）、「塾や習い事で忙しく、友達と遊ぶ機会が少なくなった」（52.1%）など、子どもと地域、子ども同士の人間関係の希薄化の問題を指摘する傾向が見られます。

このため、子どもの社会性や協調性を育む取り組みが求められます。

□保育所と幼稚園の先生の交流が望まれる

保育所や幼稚園に対する運営の内容や保護者の利用ニーズが近づいてきていることで、「保育所（園）と幼稚園の先生はもっと交流したほうがよい」（H16：27.9%→H21：42.3%）という保育士や幼稚園教諭の意識が5年前より高くなってきています。

このため、保育士・幼稚園教諭の連携・協力した取り組みが求められます。

□保育時間が長くなることによる子どもへの影響が懸念されている

延長保育や預かり保育などによる子どもへの影響については、「影響がある」と感じる人が全体の8割強（82.0%）を占めています。

このため、長時間の保育サービスが与える子どもへの影響を考慮した子育て支援サービスを行うとともに、仕事の家庭の調和（ワーク・ライフ・バランス）を推進していくことが重要です。

3 自由意見

(1) 小学校児童家庭調査

医療費助成の対象年齢拡大を求める意見が多く寄せられました。また、高学年の放課後対策の充実や子どもの居場所づくり、夏休みなどの長期休暇中の対応などについても意見が集まりました。その他、公園の整備や歩道等の安全対策についてなど、安全・安心のまちづくりを求める意見もありました。また、ひとり親家庭に対する支援の充実や障害をもつ子どもへの支援、「こころのバリアフリー」に関する意見もありました。

【主な意見】

- ・夏休みなど特別な期間のルーム利用者を増やして欲しい。
- ・東京のように小学生の全員に医療機関の無料利用保険証を出して欲しい。
- ・雨の日でも子供が遊べるスペースを近くに歩いてでも行ける所に作って欲しい。
- ・今後、仕事に出る事を考えていますが、子供ルームについての情報は全く分からないので、誰でも詳しい内容が分かるような案内が欲しい。
- ・学校が終わり、親が帰宅するまでの間、1人にさせる事はとても不安なので、高学年用のルーム（塾や習い事が出来る）があると有り難いと思っています。
- ・母に健康上の問題がある場合、仕事を出来る時間が体力的に十分ではなく当然、収入も希望通りには行かない。母子家庭としては現在も将来も常に家計の事を考え、不安だらけである。

(2) 中学生・高校生調査

生活経験に則した意見が多く寄せられました。グラウンドや体育館などの運動施設の充実や、音楽の練習ができる施設の整備要望などのほか、安心して自転車で走れる道路や駐輪場の整備などもありました。

【主な意見】

- ・フットサルやサッカーが出来るグラウンドを作って欲しい。安い値段で借りられるような。
- ・道路の自転車の走る場所が狭い。もっと広くして自転車の通れる所を作って欲しい。
- ・バンド練習が出来るようなスタジオをもうちょっと増やして欲しい。
- ・みんなで話せる場所が欲しい。

(3) 20代・30代調査

子どもの医療費助成の充実を求める意見や保育環境、遊ぶ環境の整備を求める意見が多く寄せられました。また、子育て支援サービス等の情報提供の充実を求める意見も一定数ありました。

【主な意見】

- ・子ども達が伸び伸び生活できる環境が大切ですが、今は女性も働く方が多いので、やはり保育所などは安心して預けられる場所が必要です。私の周りでは預ける事を不安がる親が多く見られます。
- ・何をやっているのか、どんな内容なのかが分かりにくい。市役所や区役所にポスターが貼ってあっても行く機会がないし見づらいため、子育て支援で何をやっているか分かりません。もっとアピールを上手にやったら、子どもを産みたくなる人もいるのでは。
- ・引っ越してきたばかりですが、親子で交流を持てる場所などの情報を得る手段が無くて、

困っています。

- ・今後も子育てに関する様々な支援の充実をお願いします。現在、乳幼児なのでまずは保育所の心配をしています。子育てと家事を両立しやすい仕事の紹介（勤務時間や休日）をして頂けると嬉しいです。

（４）60代調査

ご自身の経験に照らしての意見が多く寄せられました。親への支援や「親育て」の大切さについての意見、市の施策として子育てを重視すべきという意見、ひとり親家庭や障害のある子どもを養育している家庭への支援の充実を求める意見、シニア世代が子育て支援に参加できる仕組みづくりを求める意見などがありました。

【主な意見】

- ・他人に自分の子を預けるのは少し気が引けるので、グループ活動のようなサークルのような、いつも人がいて少し預けてゆっくり出来る場所が近くにあると良いと思います。友達同士で助け合っている人達を見ると羨ましいです。
- ・少子化、核家族等で家庭内でも一人っ子が多く、地域とのコミュニケーションも不足がちである。地域の高齢者（お元気な方は大変多い）にボランティアで施設（地元センター等）を利用して、保育等の手助け等の応援を頂いたらどうか・・・。
- ・子ども達の声聞く場がないのでは・・・表面的でなく色々な問題を抱えている子どもが多く見られる。
- ・3人の子どもを育てました。夫が転勤族で2～3年毎に引っ越しましたが、近所の方々や子どもの学校で知り合った友人達に色々支えられて幸せでした。親自身が積極的に社会と関わり合う姿勢が大切だと思っています。

（５）子育て関係施設従事者・子育て支援者等調査

職員数の確保や各種機関の連携強化などについての意見のほか、保護者に対する働きかけの必要性を指摘する意見が多く見られました。また、市の施策やサービスが、必要としている人々に適切に提供されるための方策についての意見も一定数ありました。

【主な意見】

- ・少人数の家庭が増えており、育児には体力が必要。また、相談できる友人、知人がいない人にとっては育児ノイローゼになることが考えられるので、出産後のサポートとして、相談できる人を配置して（育児経験のある人）は、いかがでしょうか？
- ・児相の職員を大幅に増員して欲しい（パンク状態です）。
- ・保育士の数を増やし、近所で育児に疲れている親がもっと気軽に子どもを預けられるようにして欲しい。
- ・保健師、助産師、医師等が関わる、中学での「ふれあい体験学習」の様なものを増やし、学生に「赤ちゃん」、「子育て」、「自分が赤ちゃんだった頃」等、男性も女性も育児に関わる、スタートラインをしいて欲しい。
- ・保育所、幼稚園でCAP（子どもへの暴力防止）という人権教育を保護者、教員、子ども達にして欲しい（山武市は生涯学習、子育て支援としてもう6年間もしています）。
- ・子育て支援はあくまでも子育てのための支援でなくてはならないと思います。子どもを育てながら、親も親として成長していくものだと思いますが、親が親としての自覚を持ってないままに子育てをしている方々が増えてきているように思えます。

4 アンケート対象者別（世代間等の意識）比較

■ 子どもをもつことの意味（複数回答）

【小学校児童家庭】

- | | |
|----------------------------|-------|
| 1 子どもを持ち、育てることによって、自分が成長する | 76.9% |
| 2 家族の結びつきを強める | 64.9% |
| 3 子どもを育てるのは楽しい | 49.0% |

【中学生・高校生】（※子どもを持つことに対するイメージ）

- | | |
|----------------------------|------------------|
| 1 子どもを持ち、育てることによって、自分が成長する | 39.5%（H16：44.4%） |
| 2 子どもを育てるのは楽しい | 33.3%（H16：39.7%） |
| 3 家族の結びつきを強める | 32.9%（H16：35.2%） |

【20代・30代】

- | | |
|----------------------------|------------------|
| 1 子どもを持ち、育てることによって、自分が成長する | 68.9%（H16：73.3%） |
| 2 次の社会を担う世代をつくる | 58.3%（H16：47.3%） |
| 3 家族の結びつきを強める | 49.2%（H16：48.1%） |

【60代】

- | | |
|----------------------------|------------------|
| 1 次の社会を担う世代をつくる | 71.4%（H16：71.2%） |
| 2 子どもを持ち、育てることによって、自分が成長する | 60.9%（H16：60.2%） |
| 3 子どもを通して地域との関係が深まる | 41.0%（H16：36.3%） |

【子育て関係施設従事者・子育て支援者等】

- | | |
|----------------------------|------------------|
| 1 子どもを持ち、育てることによって、自分が成長する | 80.0%（H16：77.7%） |
| 2 家族の結びつきを強める | 64.9%（H16：58.5%） |
| 3 次の社会を担う世代をつくる | 59.5%（H16：57.3%） |

■ 「大人になる」ことの意味（複数回答）

【中学生・高校生】

- | | |
|----------------------|------------------|
| 1 仕事をもち、経済的に自立していること | 51.6%（H16：55.3%） |
| 2 自分の行動に責任が生じること | 46.8%（H16：50.6%） |
| 3 家族から離れて自立していること | 46.2%（H16：49.1%） |

【20代・30代】

- | | |
|----------------------|------------------|
| 1 自分の行動に責任が生じること | 78.0%（H16：80.9%） |
| 2 仕事をもち、経済的に自立していること | 68.9%（H16：62.6%） |
| 3 家族から離れて自立していること | 40.2%（H16：27.5%） |

■ 少子化を抑えるために必要な対策（複数回答）

【20代・30代】

- | | |
|---------------------------|------------------|
| 1 子育て負担軽減のための税制や社会保障制度の充実 | 45.5%（H16：42.7%） |
| 2 教育費・住居費の軽減 | 44.7%（H16：42.7%） |
| 3 出産や保育に関する経済的支援の充実 | 28.8%（H16：22.9%） |

【子育て関係施設従事者・子育て支援者等】

- | | |
|-------------------------------|------------------|
| 1 子育て負担軽減のための税制や社会保障制度の充実 | 33.9%（H16：30.7%） |
| 2 教育費・住居費の軽減 | 32.0%（H16：33.4%） |
| 3 勤務形態の多様化（フレックス勤務、中途採用の拡充など） | 26.4%（H16：27.3%） |

■ 少子化が進行している理由（複数回答）

【中学生・高校生】

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1 子どもを育てるのにお金がかかるから | 46.9% (H16 : 41.2%) |
| 2 結婚する年齢が上がってきているから | 38.5% (H16 : 32.1%) |
| 3 女性の社会進出が進んでいるから | 31.8% (H16 : 36.6%) |

【20代・30代】

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1 子どもを育てるのにお金がかかるから | 61.4% (H16 : 54.2%) |
| 2 個人の人生観や価値観が多様化したから | 40.2% (H16 : 47.3%) |
| 3 結婚する年齢が上がってきているから | 37.1% (H16 : 41.2%) |

【60代】

- | | |
|-----------------------------|---------------------|
| 1 子どもを育てるのにお金がかかるから | 41.6% (H16 : 34.1%) |
| 2 個人の人生観や価値観が多様化したから | 39.1% (H16 : 42.0%) |
| 3 環境問題や教育問題など子育てに不安な社会環境だから | 36.0% (H16 : 38.1%) |

【子育て関係施設従事者・子育て支援者等】

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1 個人の人生観や価値観が多様化したから | 46.9% (H16 : 52.2%) |
| 2 子どもを育てるのにお金がかかるから | 45.7% (H16 : 34.1%) |
| 3 結婚する年齢が上がってきているから | 36.4% (H16 : 45.9%) |

■ 晩婚、非婚についての考え

【中学生・高校生】

- | | |
|---|---------------------|
| 1 個人の人生観や価値観によるものなので、かまわないと思う | 42.3% (H16 : 68.1%) |
| 2 対策はした方がいいと思うが、実際には難しいと思うので、
晩婚・非婚が増えるのはしょうがないと思う | 24.6% (H16 : 10.2%) |
| 3 晩婚、非婚が増えれば、子どもの数も少なくなり、経済や福祉に悪い影響を与えるので、何らかの対策をするべきだと思う | 22.0% (H16 : 10.4%) |

【20代・30代】

- | | |
|---|---------------------|
| 1 個人の人生観や価値観によるものなので、構わないと思う | 55.3% (H16 : 64.1%) |
| 2 晩婚、非婚による少子化は経済や福祉の衰退を招くので、
何らかの対策をとるべき | 26.5% (H16 : 21.4%) |
| 3 対策の必要性はわかるが、対策は難しいと思うのでこのままの状態では仕方ないと思う | 11.4% (H16 : 11.5%) |

【60代】

- | | |
|---|---------------------|
| 1 晩婚、非婚による少子化は経済や福祉の衰退を招くので、
何らかの対策をとるべき | 49.7% (H16 : 43.4%) |
| 2 個人の人生観や価値観によるものなので、構わないと思う | 25.5% (H16 : 32.7%) |
| 3 対策の必要性はわかるが、対策は難しいと思うのでこのままの状態では仕方ないと思う | 12.4% (H16 : 12.4%) |

■ 子どもを取り巻く都市環境や社会環境について（複数回答）

【小学校児童家庭調査】

- | | |
|--|------------------|
| 1 暗い通りや見通しのきかないところが多く、子どもが犯罪の被害にあわないか心配である | 51.0%（H16：61.2%） |
| 2 歩道や信号がない通りが多く、事故にあわないか心配 | 40.3%（H16：37.5%） |
| 3 子どもと近隣の人との関わりが少なくなった | 34.2%（H16：48.2%） |

【子育て関係施設従事者・子育て支援者等】

- | | |
|--|------------------|
| 1 子どもと近隣の人との関わりが少なくなった | 60.1%（H16：56.6%） |
| 2 塾や習い事で忙しく、友達と遊ぶ機会が少なくなった | 52.1%（H16：52.7%） |
| 3 暗い通りや見通しのきかないところが多く、子どもが犯罪の被害にあわないか心配である | 47.7%（H16：56.3%） |

■ 市の子育て支援策【認知状況】

【20代・30代】（「知っている」と「聞いたことはある」の合計）

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1 乳幼児医療費助成・児童手当 | 76.5%（H16：72.6%） |
| 2 子どもルーム | 69.0%（H16：71.0%） |
| 3 教育相談 | 63.6%（H16：61.1%） |

【子育て関係施設従事者・子育て支援者等】（「知っている」と「聞いたことはある」の合計）

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1 子どもルーム | 95.2%（H16：95.6%） |
| 2 乳幼児医療費助成・児童手当 | 94.2%（H16：88.3%） |
| 3 一時・特定保育 | 92.8%（H16：91.0% ※） |

※H16は、一時保育のみ

■ 市の子育て支援策【必要性】

【20代・30代】

- | | |
|-----------------|------------------------|
| 1 乳幼児医療費助成・児童手当 | 必要である：90.2%（H16：90.8%） |
| 2 病児・病後児保育 | 必要である：88.6%（H16：選択肢なし） |
| 3 教育相談 | 必要である：87.9%（H16：90.1%） |

【子育て関係施設従事者・子育て支援者等】

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1 子どもルーム | 必要である：92.8%（H16：92.7%） |
| 2 教育相談 | 必要である：91.9%（H16：92.2%） |
| 3 家庭児童相談室・保育所（園）での育児相談 | 必要である：90.1%（H16：選択肢なし） |

私たちが考えた 次世代育成支援行動計画への提言

平成 21 年 8 月

千葉市子ども交流館にて実施した

ワークショップ参加者代表メンバー

小林花奈・溝端匠・鶴田遥・畠山祐未・相間紀久子・鈴木梨菜・菅嶋友里・橋本七海・内海菜々花・
重高菜摘・門田大輝

開催日程 6 / 3 ~ 7 / 1 1 (全 5 回)

参加者 延べ 6 2 人

はじめに

きぼーるのような施設はもっと必要だと思う。

きぼーるみたいに大きい施設じゃなくて良いから、本当に居場所が欲しい子どもとか、相談したいって子どもたちが利用できる場所が必要だと思う！！学校だけじゃなく、まあ、そういう場所！！

あと、子どもだけではなく老人の方々も、今、居場所がなくて困っている人達がたくさんいます。だから、もっと考えたほうが良いと思います。例えば、老人ホームとか、実際、本当は家族との関わりが欲しいとか思ってるかもしれません。家族と一緒に住みたいとか、だから家族と関わって居心地の良い場所が必要だと思います。そういった施設はどうしたら良いとか、本当は誰にとって何が良いとか分かりません。でも、考えなきゃ始まらないし、もっと提案して行って作ってあげれば良いと思います。

保育所なども一緒だと思います。大人だとか子どもだとか、実際起こっている問題は同じだと思います。老人や子どもも望んでいるものは一緒です。たぶん、望んでいるものは、居場所、家族との関わり、住みやすい環境だと思います。それをゆっくりで良いから考えて、いつかみんなが住みやすい環境に向けて実現していけば良いと思います。

今、実際、自分は何もしていないし、この実現に向けてやってないけど、これから変えられるし、協力していきたいと思います。

「正しい大人 (って?)」とか思ったんですけど、実際、子どもも大人になるわけだから、ずっと正しいことをしてれば正しい大人になると思います。

子どもも大人も誰でも間違いはあるし、正しいことなんてないと思います。子どもと大人は、考えは違うと思うし、大人は子どものことを理解して、子どもは正しい大人になるように頑張れば良いと思います。

(原案作成 菅嶋友里)

こどもの力による

次世代育成支援計画への提言

★は賛同の多かった意見、()は賛同数。

その他は目標の順番は多い順、中の項目も各々多い順

1. これまでの次世代育成支援計画(前期計画)への提言

基本目標7 支援が必要な子どもと家庭への対応

- ★ 障害のある子をもっと普通の学校で受け入れるべき。障害のない子にとっても社会経験になる。それが出来ないなら一般校と特別支援校の交流をすれば良い(18)
- ★ DVを防ぐ、の意味が分からない。当事者はそんな事話せるの？担当の市の職員が信用出来るかどうか、が分からないのが問題。興味の無い人にとって理解されないようなマニフェストじゃダメ(6)
- ★ 里親制度を充実してほしい。里親制度ってこれでいいの？共働きの人は里親になれませんか、といわれてそれはオカシイと思う(6)
 - ・ ・ ・ その他の意見 ・ ・ ・ 介護できる人、看護師をふやしてほしい／自立支援施設は、入所させるより話を聞く方が大事では？／DVを無くすには親と交流できる場所をたくさんつくる／ひとり親支援で、同じような境遇の子ども同士で話し合える場が必要では？

基本目標3 仕事と家庭の両立支援

- ★ 子どもを預けるところや産むところが少ない(8)
- ★ 就職サポート事業が必要、働く場所がもっと出来てほしい(3)
 - ・ ・ ・ その他の意見 ・ ・ ・ 子育て家庭にやさしい働き方を目指す

基本目標5 次代を担う人間をはぐくむ教育の充実

- ★ スクールカウンセラーみたいな人を学校以外のところにも置いて欲しい。そんな事を話せる(学校以外の)場所が欲しい(6)
- ★ ス理科教育にもっと力を入れて欲しい。理科にもっと親しんで(5)
 - ・ ・ ・ その他の意見 ・ ・ ・ 少年自然の家運営事業／農山村留学推進事業／情報教育、もっとキチンとして欲しい。大人が実態を知らなすぎる。悪い使い方の事例も知らない。情報モラルの講義、「あ、そう」で終わっちゃってる。「痛い目を見ないと分からない」では遅すぎるし困る！教育ビデオがキチンと作られてない。大人にも作らせて、高校生にも作らせて、競わせれば良い。言葉遣いが上から目線でイヤになる。聞く側の生徒もシラケて揚げ足を取り始める／青少年海外ふれあいセミナー

基本目標1 子育て家庭の「育児力」の向上

- ★ 子育てリラックス館。クルマで行きづらいらしい。各小学校区一つぐらいあれば良いん

じゃない？中学校の空き教室とか使えば良い（3）

・ ・ ・ その他の意見 ・ ・ ・ 次代の親への意識付けを図り、家庭の教育力を高める／若いお母さんとそうじゃないお母さんとが交流したら？

基本目標6 子育て家庭にやさしいまちづくり

★ 若年世代の住居取得支援。低コストで住めるよう。気持ち良く千葉で住みたい、働きたい（3）

2. これからの次世代育成支援計画(後期計画)への提言

1) 政治

★ 政治が信用できない。正しい大人って何？（9）

2) 居場所・施設

★ 「家出の家」（家出の行き先）があって、話せる大人がいれば親も心配しない（11）

★ 自然の家やきぼーるみたいなどころをもっと作って欲しい。自然の家は宿泊出来る部屋が少なくて行けなくなったことがある。きぼーる一箇所なので飽きてきた（8）

★ 図書館の利用時間が短く、体育祭等の振替え休の月曜日閉館は不便（7）

★ 公園のボール遊び禁止をやめてほしい。遊び場が少ない（7）

★ 室内プールをもっと近くにほしい（6）

★ 自然の家みたいなどころ（宿泊棟）、を造ってほしい（6）

★ ボールプール中学生だって楽しみたいのに、なぜ小学生限定？（6）

★ 子どもたちの森プレーパークの事、知らなかった。もっと知りたい→子ども運営委員会で行きたい。きぼーる発のシャトルバス、もっと言えば千葉をめぐるバスツアー（はとバスみたいなの）を企画しては？（4）

★ 子どもが安心して遊べる公園があるといい（4）

・ ・ ・ その他の意見 ・ ・ ・ 科学館のふれあいパスポートも高校生には無いから作って欲しい（3）／きぼーるの事をもっとアピールしたい。アチコチで伝えたい。CNCとか。運営委員会の「放送部」とか作ろうか？（1）

3) 道路・交通

★ 自転車にもっとやさしいまちにして欲しい。歩道の幅とか段差とかイヤになる（6）

★ 道が細いところは、歩いている人もいるから車がスピードを落と
して欲しい（6） 9) その他意見

★ 街灯が少ないので増やしてほしい（6）

★ モノレールを伸ばすこと（これについては賛否両論）（4）

★ モノレールの運賃が高すぎて子どもには使えない。無料にして欲しい（4）

★ 駐輪場の料金で、市外在住を差別するのはおかしい（4）

・ ・ その他の意見 ・ ・ 自転車駐車をもっと増やして、もっと便利に。きぼ一から駅も遠い。いっそ電車で自転車を積めるようにしてほしい (3) / 高校行く道が怖い。何度も事故りそうになった。(日によって、クルマがスピード出しすぎる時がある) (1)

4) 電話

★ ケータイ危ない、と言いながら公衆電話少なくて困る。科学館も。大人だけが良ければ良いの? (7)

5) 安全

★ ひったくりが多発しているところにパトロールが1人もいない (4)

・ ・ その他の意見 ・ ・ 安心して外出出来るように。交通安全施設増やしてほしい。バリアフリーにしてほしい / 通学路のパトロール。小学校の周りにはパトロールの人たちいるけど、高校の周りにはいない。駅に行く迄の通学路で女子中学生がねらわれているのに。30歳代ぐらいの人が狙ってきてるっぽい

6) 相談

★ 信頼できる大人が居る身近な相談場所が欲しい。悩みがある人もここに来てよかったなと思えるようになって欲しい。相談できる場所がもっと欲しい (7)

・ ・ その他の意見 ・ ・ カウンセラールームがあった方が。相談ができるようなところがあったら良いなあ。家庭の悩みも学校で話せないからきぼ一とかで話せると良い (3) / 児童相談所とか、名称から away 感があって利用する気にならない。→home と思うのはきぼ一 (3) / こどもたちが他の大人に相談できる場 (2) / レンタルお父さん (キャッチボールとか) やレンタルお母さん (料理など) 制度って良いかも (1)

7) 国際交流

★ 子どもたちの国際交流の視点が計画にない! (6)

8) 自然環境

★ 今ここにある電化製品をまったくなしで生活すること (夏休みの長期間) (5)

★ 自然とふれあいがあるといいなあ (3)

9) その他意見

★ 子どもができると、自分のしたいことができなくなる! (3)

★ 少子化は、経済的には良くないかも。でも、環境的には少子化の方が優しい! (1)

次世代育成新計画における子ども参画の過程

プレ・ワークショップ

6月3日(水)18:00~19:00。子ども交流館運営委員を対象に実施

参加者：13人（中学生3人、高校生10人）

主な意見：○ 子どもができれば自分のしたいことができなくなる。

- 子どもを預けるところや産むところが少ない。
- 少子化は経済的には良くないけど、環境的には優しい。

第1回 次世代育成支援行動計画を次世代（子どもたち）で描く

6月13日(土)13:30~16:40

参加者：12人（小学生1人、中学生9人、高校生2人）

主な意見：○ 遊び場所や知らない人と知り合える場所がない。

- 信頼できる大人が居る身近な相談場所が欲しい。
- 細い道でも車がスピードを出して通って危険。
- 政治が信用できない。正しい大人って何？

第2回 「いえ、まち、家族のこと」を考えよう

6月28日(土)13:30~16:30

参加者：9人（中学生3人、高校生6人）

主な意見：○ 通学路に不審者情報でもパトロールない。車も危険。

- 子どもたちの森知らなかった。きぼーるからツアー？
- 携帯電話危ないと学校で言うが公衆電話少ない。科学館も
- 自転車にもっとやさしいまちにして欲しい。歩道の幅や段差が危険、駐輪場も！
- 情報教育をもっときちんとしてほしい。私たちの方が良い教材作れる！

第3回 セーブ・ザ・フレンド~身近な困った子を、どうやって助ける？

7月5日(日)13:30~16:30

参加者：13人（小学生5人、中学生5人、高校生3人）

主な意見：○ 自立支援施設は、入所より話を聞く方が大事では？

- ひとり親支援や同じ境遇の子同士で話し合える場が必要。
- レンタルお父さん（キャッチボールとか）やレンタルお母さん（料理など）制度って必要な人には良いかも。
- 「家出の家」（家出の行き先）があって、話せる大人がいれば親も心配しない。
- 駐輪場の料金で、市外在住を差別するのはおかしい。
- 図書館の利用時間が短く、体育祭等の振替え休日の月曜日閉館は不便。

- 子どもたちの国際交流の視点が計画にない！
- 児童相談所とか、名称から away 感があって利用する気にならない。
→home と思うのは“きぼーる”

第4回 中間報告に向けた意見集約ワークショップ

7月11日(土)13:30~16:30、17:00~19:00

参加者：15人（小学生3人、中学生7人、高校生5人）

内 容：○8/1「子どもの力」フォーラムにおける発表内容まとめ

○中間報告の登壇者を決定する。

○熊谷市長との意見交換

こどもたちの感想～ワークショップに参加して～

- いままで思っていたことを直接市長に話ができ、良かったです。しっかりきいてくれてとてもうれしかったです。
- いろいろ市長さんとかいろんな人の話とか聞けて良かったです。あと自分もいろんな意見が言えて良い経験になりました。たのしかったです！！
- この計画には、参加するまで興味すらありませんでしたが、その計画は、とてもいいものであり、千葉市のこれからは話せるのは、自分も千葉の未来に関われるので、とても良かったです。
- 今回、子どもプランに参加して普段友達と千葉市に関する要望とか話したりしないし、話してもそれが市長さんに伝わることはないのですごくラッキーだったし、参加していない人がかわいそうだと思います。(笑)

千葉市次世代育成支援行動計画（後期計画）
夢はぐくむ ちば こどもプラン

発 行	平成 22 年 4 月
編集・発行	千葉市(こども未来局 こども未来部 こども企画課) 〒260-8722 千葉市中央区千葉港1番1号
電 話	043-245-5178
F A X	043-245-5547

